



ハウと指導のポイントをまとめ
たものである。

本書の目的は、よい研究とは
何かから、研究テ

ーマの育て方、研
究助成獲得に向け
た計画書作成、学
会発表、ライフワ
ークの育て方まで、
そのゴールとプロ
セスを「見える化」
することである。

筆者は「目的が
3つあれば結論も
3つ」「優れた文

献だけを20〜50本選んで引用す
る」「5〜7回は推敲する」と、
研究のポイントを数字で示す。

同時に、「よい研究は、質の高
い臨床や健康長寿社会の実現の
ために必要で、普遍的な価値が
ある」として、社会的意義を示
す。その上で「研究と勉強の違
い」を強調する。多くの院生が
最初に提出するのは「研究計画

本書は、医療
や福祉の現場で
働く社会人を中
心とした近藤氏
の大学院での研
究指導の経験か
ら、研究のノウ

研究の 育て方

ゴールとプロセスの「見える化」 近藤 克則

近藤克則 著

2700円 医学書院

☎03-3817-5666

研究の育て方

ゴールとプロセスの「見える化」

書」ではなく「勉強計画書」だ
という。それは、既に他の人に
よって明らかにされていること
を勉強する計画にとどまってい
る。これに対して、それまでの
学術研究の蓄積のなかで知られ
ていなかったこと、何らかの意
味で新しいことを明らかにする
ための学術研究こそ必要だと筆
者はいう。

評者は考える。

教師にとつて、現
場ならではの、そし
て自分ならではの
仮説を持ち、研究
を深めることは、
義務であり、喜び
といえよう。なか
には、教職大学院
でさらに研究を深
めようとする教師
もいるだろう。そ

のときに大切なことは、「勉強
したい」という気持ちを昇華さ
せて、「自らの教育実践に基づ
く世界で唯一の仮説を検証する」
というレベルにシフトさせるこ
とではないか。教師が一人一学
説を携えて、交流し、議論し、
キャリアアップできる環境を実
現したい。

(前聖徳大学教授・西村美東士)